

千葉地区地域協議会

- 1 日 時 令和8年3月18日（水） 午後1時から午後3時
- 2 場 所 千葉県庁企画管理部会議室
- 3 出席者 別紙名簿のとおり（9名／9名）
- 4 概 要

【委員】

- ・子供が高校進学時に、受検科目数や学費を比較した結果、県立高校でなくてもよいと思うようになった。
- ・私立無償化になり、設備整備が整っている私立がより魅力的に思えてしまう。
- ・以前の県立高校に行くものだという常識が変わってきているように思う。
- ・県立高校は先生たちの負担も大きく、余裕がない状況と捉える保護者もいる。
- ・学食があったらよいのに、という意見もあった。
- ・私立高校の良さに負けない魅力が公立高校にもあればよい。
- ・学校の特徴・魅力について、公私の区別なく、どのようなことが学べるかはっきりしていると選びやすいのではないか。
- ・学校の魅力を文字で書かれていても伝わりにくい。伝え方が変わるとよいと思った。
- ・体育館の冷暖房完備が必要。
- ・私立に受かって公立受検をやめる子を何人も見たため、私立のように年内に試験があったらどうか。

【委員】

- ・高校で専門的なことを学ぶのはよいことだと思う。
- ・全日制で選択授業ができるようになっているが、勉強する気がないと楽な方を選択する。適度な特色ある押し付けがあってもよいのではないか。
- ・外国語やSSHに力を入れている市立千葉のような学校を希望している中学生もいる。
- ・県立高校の指定校枠については魅力となるのではないか。どこの大学から指定校があるかについて、アピールの材料となるのではないか。

【委員】

- ・千葉地区には多種多様な県立高校が交通の便のよいところにあり、中学生にとっては選択肢がたくさんあって恵まれている。

- ・生徒の流入をみると、千葉地区は他地区から流入している状況だが、それは周りの地区の生徒数を減らしているということでもある。統合については第1学区だけで考えず、近隣の学区との関連を考慮しなければならない。
- ・郡部だけでなく都市部においても、学級減での対応だけでなく統合を行わなくてはいけないのではないか。
- ・「学校は学びの場である」ことを基本とし、教科等の学習の場としてはどうか、人として成長する場としてはどうか等々、多面的に考える必要がある。その際に生徒・教員のことだけでなく、事務職員のほか教員以外の学校職員（SC や SSW 等）を含めた人財のことも考えていく必要がある。
- ・文部科学省がネクストハイスクール構想を出した。1つ目は普通科改革、2つ目は専門学科の充実、3つ目は多様な学びが挙げられている。
- ・普通科改革については、AI が社会に浸透してきている状況で、ただの理系人材ということではなく、AI を使いこなすような人材を育成する必要がある。文系・理系を意識せず、文理横断的な学びの姿勢が必要となってくる。
- ・県立学校のメリットは、学校数・職員数の多さである。いろいろな設備があり、人材が揃っている。今まで学校単位で、普通科の中にコースを設置して専門的な学びができる環境を作ってきた。数の優位を活かすために、学校単位でなく複数の学校が集まって、コース制を運用するようなことも考えられる。
- ・何らかの理由で特色をもつ学校に行けなかった生徒のニーズに応えられるシステムを複数校で構築することは、数多い県立高校だからこそできるのではないか。
- ・上記2点は、ICT を活用するなどして省力化もできる。将来を考えて汗をかくことは必要な事と考える。
- ・施設・設備について私立のパフレットを見ると、私立の方がよいと思ってしまう。
- ・施設・整備については、子供も保護者も県立学校に行くのがっかりする。小中学校から進学してきた生徒ががっかりしないような施設・設備が必要である。

【委員】

- ・設備面については面談等を通して生徒・保護者から私立を見に行くと私立に行きたくなるという声があった。
- ・無償化の話もあり、設備・部活を理由に私立に流れる様子が見受けられた。
- ・親世代にはまずは県立という意識が根強く残っていると感じる。
- ・予想外の県立高校が定員割れしている状況を見て、私立が決まっていた生徒から、定員割れの学校を二次募集で受検できないのか、という声もあった。
- ・県立志向も残っているので、県立の魅力をどう生徒に伝えていくかが大きいと思

う。

- ・面談の中で、高校を選ぶときに、学力を指標にしている生徒が多い。それについては、塾の先生の発言の影響が大きい。商業科に行きたいと言っていた生徒が、塾の発言で普通科に流れた例もある。学校としては学力だけではなく、自分が何をやりたいのかを考えてほしい気持ちがある。
- ・私が勤務した学校で、商業・工業の先生に中学校で説明会をしていただいた。職員も生徒も面白そう、という感想があった。興味を引くような説明をしていただけるとありがたい。

【委員】

- ・広域通信制に通う生徒が激増している。現在は中学校を卒業後すぐに通信制に入学する生徒が増えている。
- ・規模の大きな通信制があり、よい教育をしているとしても、県から生徒がそちらに流れるのは危機的状況である。自然減より激しい減り方を助長しているのは広域通信制である。
- ・県内に魅力ある通信制高校を作ってもらいたい。大量に生徒を集めている広域通信制を研究して、魅力ある通信制を作してほしい。かつて、新体操のオリンピック選手を育成するための取組が千葉大宮で行われた。それに倣う形でゴルフやテニス、ピアノに特化したコースがあれば、県外への流出を避けられるのではないか。

【委員】

- ・財源が限られるなか、いかにしてインフラを維持しながらまちの魅力を高めるかが課題である。ハードだけでなく、ソフト的な取組が求められている。
- ・これまでも地域に関心を持ち、まちづくりにつながるようなカリキュラムを組んでもらっていると思うが、これからも引き続きお願いしたい。
- ・委員からあった、文理の境目なく育てることについて、共感するところがある。これからは、人口も減少していくなかで柔軟に対応できる人材が求められてくると思うので、文理の境目なく学ぶという意識は重要だと思う。

【委員】

- ・生徒、保護者のアンケートをもっと重く受け止めるべきである。トイレの改修等、お金をかけてできることであれば、公立もやっていかなくてはならない。今の規模では間に合っていない。
- ・いろんな魅力があるとはいえ施設・設備は大きな要素である。ここについては教

員がいくら頑張っても無理である。県がやるしかない。

- ・現在倍率が維持できているのは大学進学実績がよい進学校のみである。そうではない進学実績がどこに行っても大差がない、ボリュームゾーンの学校の倍率が落ちてきている。市立千葉を選んでもらえるのはSSHを4期19年続けてやっており、そういう特色があるからだと思う。SSHをやれというわけではなく、学力ではない各校の魅力を高める必要がある。
- ・専門高校には専門高校の魅力があり、同じレベルの普通科にはないような指定校推薦が来ているような実情を中学校の先生方に知ってもらいたい。
- ・熊谷市長の時代に始めたキャリア教育推進を受け、千葉市では5年目の先生を対象に専門高校の見学を行っている。
- ・セーフティネットの学校は魅力化というより、きめ細やかな指導を継続していけばよいと思う。
- ・先生方も変わっていかなければならない。昔に比べて親も子供も過保護になっている。教員もそういう生徒が相手だということを理解して、生徒指導していかなければならない。義務教育や特別支援学校に行ってその考え方を学ぶ人事交流のような研修プログラムを用意すべきである。
- ・総合的な探究の時間について、教員が探究力を持たないと伴走できない。稲毛国際は中高一貫教育を活かし、稲毛クエストという中1から高3まで総合的な探究活動を継続している。市立千葉も理数探究をやっていて、週に2時間、3年間で6単位行っている。普通科でもそのような取組をすべきである。5教科の力をどう使うかということが大切である。先生方も生徒も学校も変える必要がある。
- ・進学実績の見せ方として、指定校推薦で合格したというのは分けて公表していない。それを表記すれば、参考にはなるのではないか。

【委員】

- ・三部制定時制や色々なコースを作って、多種多様な選択肢を中学生に用意していることについて有難く思っている。多種多様な学びができるよう堅持していただきたい。
- ・アンケートについて、上位にきている項目が必ず大事というわけではないと感じた。例えば制服は上位ではなかったが、制服が変わるときに倍率があがる傾向にある。色々な要素が絡んできた結果だと見ていかないと見誤ってしまうと思う。
- ・高校生が魅力ある高校にするために、自分たちが過ごして楽しいと思うためにもどういったことが必要なのかを考えた方がよいのではないか。
- ・1クラスに40人いると、きめ細やかな指導は難しい。1クラスの人数を考えていく必要がある。

- ・あの学校にあの先生がいるから行きたいと思う生徒もいる。ただ最近、先生方が自分の力を出せなくなっているのか出さなくなっているのか分からないが、魅力ある先生が出てきていないというのも気になった。
- ・アピールの仕方について、校長や進路担当の先生にアピールしても魅力は子供たちに伝わらない。直接子供たちにアピールしてもらった方が、よいのではないか。本校では実際に商業・工業の先生に来てもらって話をしてもらっている。

【委員】

- ・私立と公立の校長会で、私立無償化の影響について、施設面で太刀打ちできないと意見があった。
- ・産業高校が価値を高めていきたいことを踏まえ、地域を支える人材を輩出していること、それに向けて様々な取組をしていることをアピールしていきたいとの話があった。
- ・専門コースを設置している学校は、それに見合う設備や専門知識を持った人材を配置してもらうことが必要である。
- ・生徒・保護者が求めているのはきめ細やかな指導である。以前より強く求められていると感じる。泉高校はとてもきめ細やかな指導をしているが、定員割れしているからこそ、その指導ができ、40人規模ではとてもできないと聞いた。アクティブスクールを考えると、定員・教員配置をどうするかについて配慮してほしい。
- ・高校は広域から集まるので、地域とのつながりについて、地元という感覚が小中学校とは違う部分がある。ただ、ボランティアなどの活動で達成感を感じ、自己肯定感が高まる話は聞いている。地元・地域を支える人材を育てる使命をもって取り組んでおり、引率教員の問題や、依頼の交通整理などを地域のコーディネーターに丸投げできず、教育が担っている。
- ・部活についても中学校で地域移行が進んでいるため、クラブチームしか経験していない生徒の高校部活動への接続が課題である。現場の職員の負担感は厳しいものがある。
- ・施設設備に関しては、トイレの洋式化が進んでいるとは言うが、便器が洋式に変わるだけで、床・壁はそのままであることが多い。年中どこかで工事している状況である。
- ・多くの学校は進学実績については公表している。しかし指定校枠については、該当年度に指定校枠がなくなることもあり、明文化して公式に出すことはできない。
- ・学級の人数減等を検討してほしい。きめ細かな対応のためには職員数の確保は必須である。

- ・高校の現場が考えていた以上に施設・設備に関する意見が多かった。このことを重く受け止め、対応を急いでほしい。現場では安心安全な学校生活を送ることすらままならない。
- ・現場の職員は日々精一杯努力している。そのやる気が活かされる方向で改革を進めてほしい。

《事務局》

- ・各学校の情報発信は学校のホームページでブログのような形で日々の出来事を公表している。
- ・note という新しい情報発信ツールを全県立高校に導入し、本日 note と連携協定を結んだことが報道発表された。既に、複数の学校で試行している。
- ・更新情報が横並びになっていて、閲覧しやすい表示形式となっている。動画なども掲載しやすい。
- ・これからは生徒達に動画などを作ってもらい、アップロードすることを計画している。